

# 医学部生実習スタート

## 新見など6ヵ所 岡山大1年生9人

岡山県が県北部を中心とし、過疎地医療などとして、岡山大に寄付して開設した地域医療人材育成講座の医療実習が6日、哲西町診療所（新見市哲西町矢田）など県内6医療機関で始まった。医学部の1年生が17日まで、診療所や病院の仕事などを学ぶ。

岡山県内では医師の約9割が県南部に集中し、過疎地医療などどう関心を持ってもらうかが課題となっている。岡山大は昨年度、医師不足の地域に勤務する医師養成に向け「地域枠コース」を導入し、本年度は、さらに人材育成に力を入れようと同講座を開設。実習には地域枠コースの学生と、希望する一般医学部の計9人が参加し



外来患者の血圧を測る渡辺光さん（哲西町診療所）

た。

哲西町診療所では渡辺光さん（18）が泊まり込みで実習。血圧測定をしたり、同講座の教

授を務める佐藤勝医師が患者に胃カメラ検査する様子を見学。鈴木忠広所長の往診にも同行した。

哲西町地区は人口約3千人で高齢化率約37%。同診療所の常勤医師2人がエリアをカバーしている。渡辺さんは

「診療所は小さいイメージだが想像以上に多くの設備があって驚いた。病院との違いや特徴を学びたい」。佐藤医師は「現場に触れ、地域医療の重要性や面白さを学生たちに伝えたい」と話していた。

この日は川上診療所（高梁市川上町地頭）、金田病院（真庭市西原）、大原病院（美作市古町）、奈義ファミリークリニック（奈義町豊沢）、金光病院（浅口市金光町占見新田）でも実習がスタートした。

同講座は本年度スタートした県の地域医療再生計画の一環として開設した。県と岡山大が結んだ協定に基づき2013年度まで実施する。（岡亮佑）